

## 今年こそは！

### 産地一丸となり高品質酒米生産に向けた現地研修会を開催

石川農林総合事務所

管内は酒米の生産が盛んで、令和2年は125haの作付けがありました。このうち、白山市山島地区は45haで管内の約3分の1を占める県内最大の産地となっています。

こうした中、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により日本酒の需要が激減し、全国的に酒米が供給過剰となりました。

本年も厳しい状況に変わりはありませんが、“求められる酒米”づくりを目指そうと、6月29日に現地研修会を開催し、生産者10人が参加しました。

研修会では、生育や気象状況を考慮した栽培管理の実践等について説明を行い、昨年にも増して満足のいく酒米をつくろうと、意見交換を行いました。

また、7月14日には初めての南加賀地区・石川地区合同による「百万石乃白」現地巡回を開催し、生産者や普及指導員など18人のほか、酒造メーカー2社が参加しました。

当日は、8カ所のほ場を巡回し、肥料の種類による生育の違いを確認するとともに、出穂期予測や今後の栽培管理等の説明を行いました。

その後の意見交換では、熟練した栽培技術情報や酒米づくりの苦労話が飛び出すなど、普段とは違う交流が生まれ、地域の垣根を越えて生産者の団結力が強まりました。

当事務所では、今後も研修会やほ場巡回等を実施し、生産者に役立つ情報を提供していくこととしています。そして、今年こそは「おいしい日本酒」と「生産者・消費者の笑顔」があふれる年になることを願って、産地と関係機関が一丸となった高品質な酒米生産の取組を支援していきます。



研修会での活発な意見交換



「百万石乃白」現地巡回の様子

問い合わせ先：農業振興部（076-276-0371）